

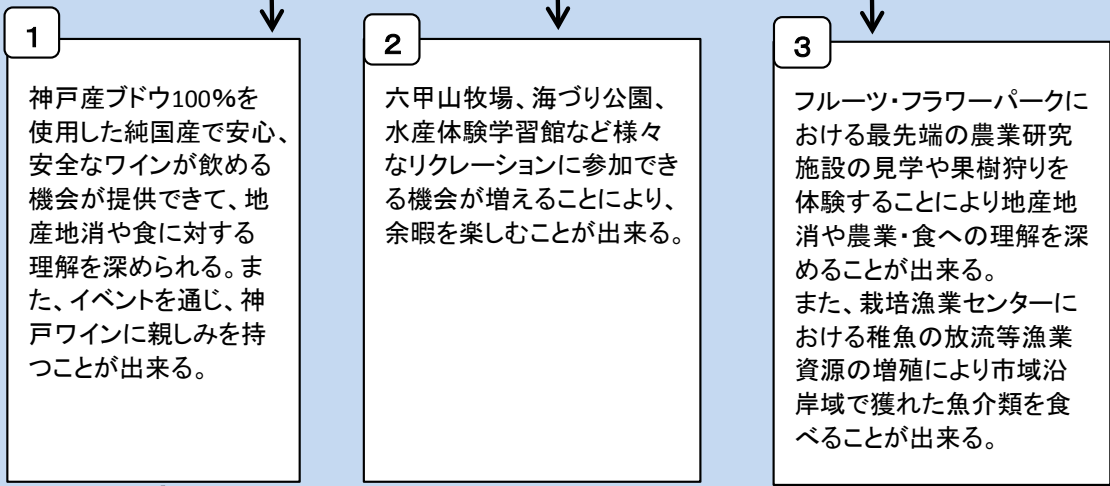
○基本情報

		記載日	平成29年9月23日
団体名	一般財団法人 神戸みよりの公社	所管局名	経済観光局
設立目的	神戸市域の農業及び漁業の振興に資する事業を実施し、市民福祉の向上と市域農漁業の発展に寄与する。		

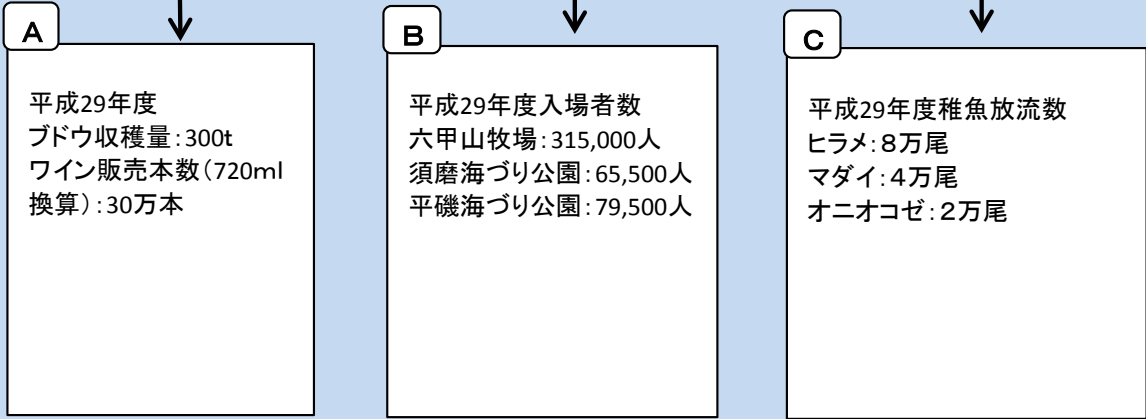
M
市が団体に求めるミッション
Mission

長期	神戸市域の農業及び漁業の振興に資する事業を実施し、市民福祉の向上と市域農漁業の発展に寄与する。
5年	<p>1・・・神戸産ブドウを100%使用した神戸ワインの品質と知名度の向上を図るために、当社が30年に亘って培ってきた神戸ワイン用ブドウの栽培管理技術を活かして、市内のブドウ生産者への栽培指導を徹底することで、生産量の安定と安心して美味しいワインづくりを目指す。また、食都神戸2020構想の実現に向けて、神戸ワインを国内外で開催するイベントに出展し、ブランド力の向上を図るとともに、婦人会など地元地域団体との連携等を行い、市民へのPRを強化する。【指標例：ブドウ収穫量、ワイン販売本数】</p> <p>2・・・六甲山牧場、海づり公園など、広く市民に農漁業の理解を深めるための施設を効果的、効率的に運営する。【指標例：入場者数】</p> <p>3・・・市から委託を受けているフルーツ・フラワーパークや栽培漁業センター等を管理運営し、農漁業の振興に寄与する技術の発展に努める。【指標例：稚魚の放流数】</p> <p>【2020ビジョン及び部門別計画等との関わり】 神戸ワインについての情報発信を強化しPRを図る。 栽培漁業センターを活用し、既存の種苗の生産、放流に加え、新たな魚種の試験に取り組む。</p>

V
市民に提供する価値
Value



T
事業目標
Target



※平成29年3月に平成29年度の目標を見直し、それに伴い事業目標等について修正を加えている。

○基本情報

記載日

平成30年8月10日

団体名	一般財団法人 神戸みなのりの公社	所管局名	経済観光局
設立目的	神戸市域の農業および漁業の振興に資する事業を実施し、市民福祉の向上と市域農漁業の発展に寄与する。		

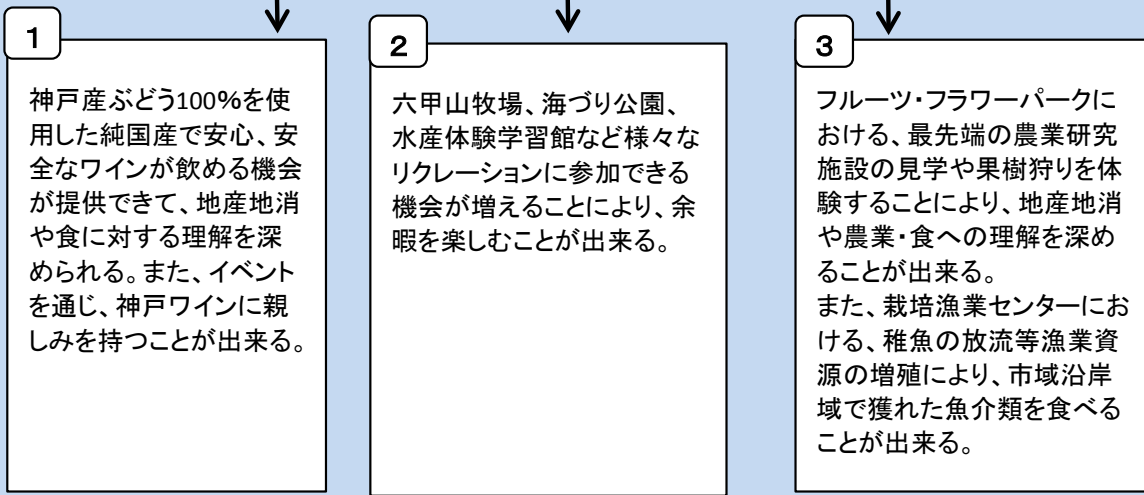
M

市が団体と求めるミッション
Mission

長期	神戸市域の農業及び漁業の振興に資する事業を実施し、市民福祉の向上と市域農漁業の発展に寄与する。
5年	<p>1……神戸産ぶどう100%を使用した神戸ワインの品質と知名度の向上を図るために、当公社が30年に亘って培ってきた神戸ワイン用ブドウの栽培管理技術を活かして、市内のブドウ生産者への栽培指導を徹底することで、生産量の安定と安心して美味しいワインづくりを目指す。また、食都神戸2020構想の実現に向けて、神戸ワインを国内外で開催するイベントに出展し、ブランド力の向上を図るとともに、婦人会など地元地域団体との連携等を行い、市民へのPRを強化する。【指標例：ブドウ収穫量、ワイン販売本数】</p> <p>2……六甲山牧場、海づり公園など、広く市民に農漁業の理解を深めるための施設を効果的、効率的に運営する。【指標例：入場者数】</p> <p>3……市から委託を受けているフルーツ・フラワーパークや栽培漁業センター等を管理運営し、農漁業の振興に寄与する技術の発展に努める。【指標例：稚魚の放流数】</p> <p>【2020ビジョン及び部門別計画等との関わり】 神戸ワインについての情報発信を強化しPRを図る。 栽培漁業センターを活用し、既存の種苗の生産、放流に加え、新たな魚種の試験に取り組む。</p>

V

市民に提供する価値
Value



T

事業目標
Target

A	B	C
<p>平成30年度 ぶどう収穫量：300t ワイン販売本数(720ml換算)：28万本</p>	<p>平成30年度入場者数 六甲山牧場：300,000人 須磨海づり公園：67,200人 平磯海づり公園：72,800人</p>	<p>平成30年度稚魚放流尾数 ヒラメ：8万尾 マダイ：4万尾 オニオコゼ：2万尾</p>

平成29年度 ミッションの達成評価シート1 [1次評価]

		記載日	平成30年8月10日
団体名	一般財団法人 神戸みのりの公社	所管局名	経済観光局

○団体による自己評価[1次評価]

事業No.	1-A	主要事業(様式1-3)との関わり	あり(事業番号:5, 8)
H29事業目標	ぶどう収穫量:300t ワイン販売本数(720ml換算):300千本		
H29実績評価	<p>ぶどう収穫量420t(目標比:140%) ワインの品質を維持するためには、収穫量を一定の水準以下にする必要があり、当会社では10aあたり1tを基準としている。29年度は、収穫直前に降った雨の影響により、目標より多い収穫量となった。10年に1度位の品質の良いぶどうが収穫された、28年度に比べると、色づき・糖度共に若干不足しているが、例年並みの品質であった。</p> <p>ワイン販売本数(720ml換算):269千本(目標値:89.7%) 量より品質重視へ方向転換し、卸問屋中心の販売の他、オンラインショップや、イベントでの直販等エンドユーザーを重視した販売戦略等に取り組んだ。 販売本数は目標に届かなかったが、圃場限定ワイン(神戸印路シナノリースリング・大沢シャルドネ)の他、神戸ブランデーを使用した梅酒(神戸梅酒おしんべのころ)など、プレミアム感の強い商品の販売を行った結果、販売量は減少したが、収支については黒字を確保することが出来た。 また、ジャパンワインチャレンジで「ベネディクション・ブラン2016」が金賞を受賞するなど、品質が良く、多くの方に評価されるワインの製造販売をすることが出来た。</p>		<p>評価</p> <p>S A B C</p>
H30事業目標	ぶどう収穫量:300t ワイン販売本数(720ml換算):280千本 H30年度についても、採算ベースを確保するため、高品質・高価格帯での販売方針を継続し、目標を設定した。		
評価担当者	経営企画課長 田中英彦		

事業No.	2-B	主要事業(様式1-3)との関わり	あり(事業番号:1, 2, 3)
H29事業目標	入場者数 六甲山牧場:315,000人 須磨海づり公園:65,500人 平磯海づり公園:79,500人		
H29実績評価	六甲山牧場:278,563人(目標値:88.4%) 四季それぞれにおけるイベントの開催、六甲山牧場の集客PRに努めたが、9月及び10月の天候不順の影響が大きく、利用者が減少し、目標達成は出来なかった。 須磨海づり公園:62,099人(目標比:94.8%) 平磯海づり公園:68,142人(目標比:85.7%) 六甲山牧場同様、天候不順の影響が大きく、利用者が減少した。親子釣り教室や釣り具メーカーとタイアップした釣り大会の開催等、様々な企画で集客に努めたが、目標達成は出来なかった。		評価
			S A B C
H30事業目標	入場者数 六甲山牧場:300,000人 須磨海づり公園:67,200人 平磯海づり公園:72,800人 平成28年度まで、神戸市内及び近隣市の小学校に割引チケット・親子釣り教室の案内等を生徒向けに配布していたが、平成29年度より神戸市内の小学校への配布をすることが出来なくなったため、目標人数を減少させた。		
評価担当者	経営企画課長 田中英彦		

事業No.	3-C	主要事業(様式1-3)との関わり	あり(事業番号:3, 6, 7)
H29事業目標	稚魚放流数 ヒラメ:8万尾 マダイ:4万尾 オニオコゼ:2万尾		
H29実績評価	ヒラメ:9万7千尾(目標比:121.3%) マダイ:7万7千尾(目標比:192.5%) オニオコゼ:3万4千尾(目標比:170%) 毎年ヒラメは10万尾前後、マダイは3万尾以上、オニオコゼは3万尾前後を放流しており、漁獲量も放流開始前と比べると、2~5倍と順調に増加している。平成29年度は、種苗生産を順調に行うことができた。特にマダイについては目標の約2倍の放流ができ、全体的に目標達成が出来た。		評価
			S A B C
H30事業目標	稚魚放流数 ヒラメ:8万尾 マダイ:4万尾 オニオコゼ:2万尾		
評価担当者	経営企画課長 田中英彦		

平成29年度 ミッションの達成評価シート2 [2次評価]

		記載日	平成30年8月27日
団体名	一般財団法人 神戸みのりの公社	所管局名	経済観光局

○所管局による総合評価(ミッションの達成評価)[2次評価]

	【ミッション毎の評価】	総合評価
コメント	<p>1-A評価(A) (上記評価の理由)</p> <p>①収量については、収穫直前の雨の影響で目標より多い収穫量となったが、日ごろの適切な栽培管理により例年並みの品質を確保できた。</p> <p>②ワイン販売については、販売本数は目標未達であったが、エンドユーザーを重視した販売戦略、プレミアム感の強い商品の販売により、収支については事業単独で黒字を確保している。また、各種コンクールにおいて受賞するなど、高品質なワインを製造することができた。</p> <p>2-B評価(A) (上記評価の理由)</p> <p>イベントの開催等、様々な企画で集客に努めたが、繁忙期の天候不順により入場者数は目標未達であった。しかし、天候の影響を考慮すると、例年通りの入場者数を確保している。昨年度の評価委員会意見では、構造的問題の有無の精査とあったが、「人間と動物と自然のふれあいの場をつくることによって、市民の教養とレクリエーションに資する」目的を勘案すれば、イベントや体験事業等の取り組みにより施設の目的達成に寄与している。</p> <p>3-C評価(S)</p> <p>毎年安定的に神戸地先の海にヒラメ、マダイ、オニオコゼ等の稚魚を生産・放流し、目標を大きく上回る実施状況であった。</p> <p>【総合評価の理由】</p> <p>天候等に影響されやすい施設であるが、イベント等の実施により、入場者の減少を最小限に抑えることができた点は評価できる。ワイン事業では、品質重視の販売にシフトし収支も改善し、今後のワイン販売に期待できる。</p>	<p>S</p> <p style="text-align: center;">(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>
対応方法 <small>(総合評価がB又はCの場合は必ず記載)</small>	<p>ワイン事業は、日本ワイン表示制度の改正を追い風に、品質重視の販売戦略のもと、従来の卸問屋中心の販売とともに、新規販路の開拓等により、販売本数を確保する。</p> <p>六甲山牧場や海づり公園などの施設は、天候に大きく左右される性質が強く、天候不順による入場者数の減少は避けられないが、雨天時にも集客できる仕掛けを検討していく。また、リピーターと新規客を区別し、それぞれのターゲットに対するイベントやPRを行い、入場者数の確保に努める。</p>	
評価担当者	施設担当課長 林 昌弘	